

建屋・三谷小学校を統合

新生「建屋小学校」が完成

建屋地区の旧かやの木スポーツ公園跡地周辺に建設を進めていた統合「建屋小学校」が完成し、3月25日に学校関係者や地元住民など約150人が出席し、竣工式典が行われました。

統合「建屋小学校」は、少子化による複式学級を回避し、子どもたちが伸びやかに学べる環境をつくるため、建屋・三谷小学校の2校を統合したものです。

4月6日には開校式が行われ、待ちに待った新校舎での生活が始まりました。同校の児童数は122人です。

なお、統合小学校の開校に伴い、明治6年の創立以来、132年の歴史と伝統を誇る建屋小学校と三谷小学校は、3月31日付で閉校となりました。

新校舎は鉄筋コンクリート造2階建、延べ床面積3187平方メートル、エレベーターや太陽光発電設備を備え、各階には様々な学習形態に対応できる多目的スペースが設けてあり



新学校の完成を祝う「三谷あばれっ子太鼓」の演奏

ます。明るく広々とした空間は、児童が意欲的に学習できる環境となっています。

この他、体育館、グラウンド、運動体験広場、プールなどの施設が整備されているほか、校舎周辺をフェンスで囲み、監視カメラを6基設置するなど、防犯安全対策にも十分な配慮をしています。総事業費は約15億1030万です。

昨年の台風23号の豪雨により、八鹿町幸陽・茶堂団地地区で発生した大規模な地すべり災害の原因等を調査するため設置されていた「幸陽・茶堂団地地すべり調査委員会」（委員長 西垣誠岡山大学環境理工学部教授）がこのほど最終報告書をまとめ、3月26日に市役所で報告会を行いました。

報告会では、西垣委員長から梅谷市長に報告書が手渡された後、報告書の説明が行われました。同委員長は「住民の方に一日も早く安心して生活してもらうにはどうしたら良いかを第一に考え調査を行いました。幸陽1・2区、幸陽3区、茶堂団地地区の3カ所とも、岩盤の調査結果や集水ボーリングによる排水処理などの応急対策工事により、さらなる崩壊の危険性はまずないと云えます」と、各種調査データを基に報告しました。この報告会を受け、同日夜に茶堂団地集会所で幸陽・茶堂



調査報告書を梅谷市長に手渡す西垣委員長

調査委員会最終報告まとまる 地すべり災害に安全宣言

団地地区の住民説明会が行われました。

市では今後、大崩壊のあった幸陽3区での土砂の除去や土留め工事を行うなど、一層の安全対策を講じていきます。

なお、今回の地すべり災害により中断している市道高柳小佐線の工事は兵庫県が代行事業として、また山腹崩壊にかかる工事については兵庫県が砂防事業として、それぞれ平成17年度から実施する予定で準備が進められています。